

第6次下田市行財政改革大綱（案）に対する意見の募集（パブリック・コメント）の実施結果について

	意見提出箇所	意見	意見に対する考え方
1		<p>4年間の当地での小児診療を通じ、賀茂の各地区や下田市の子育てで、良い点・旧態然とした時代遅れ点などを診ることができ、諸経験をさせていただいた。賀茂地区では河津以外は消滅の危機があるという情報が出たが、それも納得できる「地域活性化のなさ」を下田には感じる。日本の「僻地」自治体は色々なアイデアを出し投資をし、若い世代の誘致に努めている。しかし当地は「観光」がある事に依存してかえって面白さが出せないのかもしれないとも感じる。</p>	<p>ご意見のように当市は、第3次産業の産業別就業人口比率は82.2%（平成22年10月）と観光産業に依存している状況です。</p>
2	<p>P2 1 行財政改革の必要性 (2) 社会情勢の変化</p>	<p>P2の(2)社会情勢の変化。小児に関する国の指導方向性を知らない(理解しようとしな)い公僕が多い。今までの慣習にとらわれ自分の経験(過去のもの)が正しいと思われる方も少なくない。子供人口を増やすのにどうしたらよいかの議論はない。どうすれば増えるかの議論・情報交換の場を知らないが必要である。高齢者は15年もしたら亡くなり(私年齢も含め)そのあとの自治体運営には人口を増やすことに対応策を考えるべき。先を見ない自治体は不安が残る。</p>	<p>人口減少対策のための施策については、同時期にパブリック・コメントを行いました「下田市将来人口ビジョン及び下田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で担うこととしています。</p> <p>今回のご意見に示された内容については、下田市将来人口ビジョン及び下田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を着実に推進し、人口減少対策に取り組んでまいります。</p>
3	<p>P2 1 行財政改革の必要性 (3) 本市の課題</p>	<p>(3)市の施設などに関して、後出しじゃんけん風意見のひっくり返しが好きな地域の感じがして閉鎖性を感じる。最初から徹底した議論と計画を反対の考えを持っておいでに方たちは出すべきである。報道で見る限り「またか」と閉塞感が蔓延してきている。</p>	<p>下田市の公共施設に関しまして、総務省から策定要請されている公共施設等総合管理計画を平成28年度より取り組みます。市として実行性のある計画を策定します。</p>
4	<p>P2 1 行財政改革の必要性 (4) 財政運営の現状</p>	<p>(4)ふるさと納税を増やす方法の議論はあるのかしらない。下田市で就労し住民票は他地域にという私のような者へも何の情報・口コミ利用もない。下田市のHPは情報を集めにくい。元気と明るさがなく読みにくい。賀茂地区の他自治体は明るい画面でわかりやすいところはふるさと納税額が高い。HPは生真面目ではあるがエネルギーではなく、変化を嫌う、無難さだけを考えている</p>	<p>ふるさと応援寄附（ふるさと納税）は、P6「5第6次行財政改革の取組み(5)安定した財政基盤の確立」に位置付け、推進してまいります。返礼品についても今以上に魅力ある物を準備し、品数も充実させます。</p> <p>ふるさと応援寄附（ふるさと納税）の方法等はす</p>

第6次下田市行財政改革大綱（案）に対する意見の募集（パブリック・コメント）の実施結果について

		<p>自治体と誤解されると思う。HPのリニューアルも必要と思う。ふるさと納税をどうするとできるのか、来年の年末調整にはどうするのかの相談課があるのか？前にみた時はわからなかった。</p>	<p>でに市ホームページに掲載済みで、ふるさと応援寄附（ふるさと納税）の問合せは企画財政課企画調整係が対応しています。</p> <p>市のホームページについては、「5第6次行財政改革の取組み（4）市民サービスの充実と適正化」に位置付け、市民に早くわかりやすい情報発信を推進してまいります。</p>
5		<p>P4（1）（3）（4）などで子どもに関する項目は「放課後」「小中学校の再編成」「保育料等」しか記載がないので、啞然とし、パブリックコメントをすることにした。下田市は子ども・子育て支援をしている「ふり」はされているが、保健行政と教育の連携が悪い。子どもに関する政策も熟読理解されないで「従来どおり」と自己中心で考える育児支援者もおいでになると感じる。子供が増えるために・親たちの望む育児支援とは・・を話し合う発想はなく「どうせ人口減るから」と諦めや「子育て支援してあげている」上から目線も少なくない。私の力は微々たるものだが医師としては、保護者に少しでも医療的な安心感と納得をという思いから、一人小児科医で入院治療・当直をしている。少しでも子育てに前向きになれる地域にしたい思いからである。下田市は子育てに関してどういう自治体になろうという情熱があるのだろうか。歴史ある地域が合併したせいもあるのか、「チーム下田市」ができていない。親達も子を産み、子育てをしながら社会性のある生活=就労をする気のある方は案外多いと思う。しかし、就労した際、子供保育時間の短さ、看護師・養護教諭のいない就学前教育の現場の健康管理不安から熱での呼び出し・投薬は不可という状態で厚生省の指導と異なる。また健診で療育が必要な子を誘導できるだけの体制ができていない。健診診察医が紹介し自治体の把握努力が中途半端。</p>	<p>子ども・子育て支援について、確かに他市に比べ、支援事業が少ない状況です。そこで現状の子育て環境を少しでも改善するため、同時期にパブリック・コメントを行いました「下田市将来人口ビジョン及び下田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付け、子育て支援の充実を図ろうとしています。</p> <p>子育て支援の充実に向け、子育て支援アプリの導入等、新たな取組を行うこととしています。</p>

第6次下田市行財政改革大綱（案）に対する意見の募集（パブリック・コメント）の実施結果について

療育を任せて費用を出している施設でどんな療育ができていのかチェックすらしていない。形だけ作る事で安心されているので、子育てにメリットはない現状である。支援者の自己満足に近いともいえる。支援者の人数が少ない地域だからこそ「子育てチーム下田」を作ってどうすれば活性化する地域になるか、子育てしたくなる地域になるかの議論が必要と思う。賀茂地区他地域では3歳までの健診情報とその後の集団での教育現場との情報交流がある。子ども目線があるからである。「その子には何が必要か」という当たり前の視点。下田市にはそれが感じにくい。下田市はこの保健と教育の連携がないと感じる。発達凸凹の子は数%入るとされ、外来でも気になる子は多くいる。が、親の意向を重視することで、子を正しく診ようとせず、自分たちでできる最良の方法の検討も尽力せず、結局は子供の自尊心を育てられず、高学年には不登校となる例もかなりある。愛情は強い教育者は多いと思うが、静岡東部は大人になっての発達凸凹が多いとされるのにもうなずける現状がある。子どもに対し臨床医療では「臨機応変対応」がその子を救うことになるが、教育は時間をかけて流される感がある。適応障害児童対応のアジサイ学級ではマンツーマンでコミュニケーション能力は養えない。発達凸凹教育の方向性が親に伝わりにくい。文部省が設置指導している「コーディネーター活動」は少なく、各学校の校長の裁量にゆだねられているのが現状のようである。この4月からの発達障害者差別法解消法に際して、現状とのギャップ、発達凸凹に合った教育がうまくいっていない=をどうされるのか。昨年就任された教育長には期待できるものがあり、見守りたい。医療者にできることもあると思うが、希望しても校医になれない地域で日本医師会の学校保健について毎年参加して学んでも生かさないのは歯がゆくて、本当に残念である。

第6次下田市行財政改革大綱（案）に対する意見の募集（パブリック・コメント）の実施結果について

		<p>身体成長の3種カーブを毎学年記載し、四肢の動きチェックなどを複数校の校医をされている医師に実施していただける体制が取れるのだと信じたい。</p>	
6		<p>「行政の効率化」は勘違いをすると悲惨になる。各職「能力向上」はデスクワークではなくフットワークの中から生まれるものも地方行政には多いと思うが、概して「知的能力」での判断が多くなるのではという不安がある。自分の能力に自信があると国の提案も「僻地だから下田市ではできなくて仕方がない」という思い込み・「自己流の個人情報感」も現実にはお聞きすることがある。だから下田市は活性力がないと感じる。積極的な討論が少なく、チェック能力が機能せず、出る杭は打たれないようにするのが必要な組織を感じる。「虐待やネグレクトに通ずる問題を持っている子どもにとってどうするのが良いか」という事を福祉・保健・教育・医療の色々な視点で話し合わないと子供を取り巻く生活環境調整などにはできない。私たち医療者もその点では謙虚さを持っている。自分の力だけではその子の生活環境は治せないという経験を多くしている。だから連携という言葉が出てきている。しかし、個人情報を個人秘密と勘違いし、閉鎖して考えられる方針が今はあるようです。一部署では解決できるはずがない複雑さを家庭は持っているので、解決しないのに応用が利かず、混乱して、子どもが放置される。発達凸凹の子や不登校傾向の子や親が本当にさまよっています。県のレベルでも、この地域は問題ありと聞きます。子どもの貧困への対応はかなりトレーニングした目を持たないと気付かないし、見えません。子どもの為というより支援者たちの支援ごっこ場面もあるかと感じます。教育界での問題には発達凸凹の相談をするスクールカウンセラーが非常勤臨床心理士で、多忙で診断はしていただけるがそのあとの定期カウンセリングまでは時間</p>	<p>「行政の効率化」の懸念・意見を提出して頂きました。行財政改革にとって、「行政の効率化」は昔も今も取組まなければならない課題です。</p>

第6次下田市行財政改革大綱（案）に対する意見の募集（パブリック・コメント）の実施結果について

		<p>がないのではと感じている。県立や県内の心理学科を持つ大学との共同でのアプローチなどを検討されたらよいと思う。児童相談所の臨床心理士は対象児の為にされるわけで、下田市教育委員会での常勤臨床心理士設置など、行政での対応努力と、その子供に持っている問題点と解決方法の協議などもされる方がよいと感じる。</p>	
7		<p>「連携」が流行語となって久しいが、連携は交流がないと作れないものでもある。子育て支援者の交流がされる前に「幅のない個人情報のとらえ方」で閉鎖されているようである。行政・教育・医療療育のまずさで転出を考える方もいる。せっかく下田市に生まれても、親は子の為に移動を決心する家族もある。沼津や富士市や御殿場には青少年就労支援組織があり、色々な問題のある成人をサポートし、自尊心を持たせ、社会適応のきめ細かいサポートをされている。しかし子供時代に早期に気づき、早期対応がその子に合った教育の仕方ができ、自尊心も育つと今は言われている。子どもや育児の保護者を私たち子育て支援者に合わせるのではなく、私たち子供育児支援者が子育て中の親子に合わせる時代になってきた。私たちが変化し学びが必要になってきている。それが下田市を活性化させ、生産性のある大人に誘導でき、下田市の人口の増加、財政の面でも改善が図られてくると思う。今回の第6次下田市の行財政改革大綱にはそれを感じなかったのでパブリックコメントさせていただく。</p>	<p>連携・交流・子育て支援に対する意見を提出していただきました。各分野との連携は、今まで以上に必要であります。</p>

今回のご意見に対し、第6次下田市行財政改革大綱（案）の修正は行いませんが、今後の施策の参考とさせていただきます。